

令和6年度 編入学・学士入学試験

専門科目 : 簿記

【注意事項】

1. 問題用紙, 解答用紙とも2枚あるので確認すること。
2. 解答には黒色の鉛筆あるいはシャープペンのみを用いること。
3. 2枚の解答用紙の受験番号欄に, 受験番号のみを記入すること。

第1問

下記に示す科目は, 純資産の部に表示される科目である。表示される順番に科目番号を並び替えなさい。

- ①繰越利益剰余金 ②資本金 ③新株予約権 ④非支配株主持分
⑤その他有価証券評価差額金 ⑥自己株式処分差益 (その他資本剰余金)

第2問

P社とM社は, S社の株式をそれぞれ60%と40%の割合で取得しており, S社からの受取配当金が6,000千円と4,000千円であった。連結会計におけるP社とM社の連結修正仕訳を示しなさい。なお, P社は連結法, M社は持分法を適用している。

第3問

次の取引について仕訳をしなさい。

- (1) 商品 ¥300,000 をクレジット払いで販売した。信販会社への手数料は2%であり, 販売時に計上する。
- (2) 増資にあたり株式 1,000 株を 1 株あたり¥80,000 で発行し, 全額の払込みを受け当座預金とした。なお, 資本金には会社法が定める最低額を計上することとした。また, 株式の発行費用 ¥100,000 を現金で支払った。
- (3) 期首に営業用自動車 (取得原価 ¥2,000,000, 減価償却累計額 ¥1,600,000) を下取りに出して新車を ¥2,500,000 で購入し, 下取価額 ¥200,000 を差し引いた残額について小切手を振り出して支払った。
- (4) 商品の引き渡しから2週間以内に代金の決済を行った場合には2%の割引を行うという条件で商品 ¥150,000 を掛けで販売していたが, 販売日から10日目にあたる本日に, 割引額を控除した金額が得意先から当社の普通預金口座に振り込まれた。
- (5) 倉庫 (取得原価 ¥1,000,000, 減価償却累計額 ¥600,000) が火災で焼失したため, 火災保険 (保険金額 ¥500,000) を掛けている保険会社に保険金を請求し, 未決算勘定で処理していたが, 本日, 保険金の支払額が ¥450,000 となる旨の連絡があった。

第4問

次の〔決算整理事項等〕にもとづき、解答用紙の精算表を完成させなさい。
なお決算日はX3年3月31日である。

〔決算整理事項等〕

- (1) 現金過不足の原因について調査したところ、通信費¥200の支払い、手数料 ¥800の受け取りが未記帳であったことが判明したが、残額の理由は不明である。
- (2) 当座預金について、勘定残高と残高証明書の金額の不一致の原因は以下のとおりである。
 - (イ)決算日に現金 ¥5,000を当座預金に預け入れていたが、銀行では翌日扱いであった。
 - (ロ)得意先から売掛金¥5,000について当座預金口座に振り込まれていたが、誤って¥6,000で仕訳をしていた。
 - (ハ)X2年12月1日に備品 ¥6,000を購入したさいに振り出した小切手が、未渡しのまま金庫に保管されていた。
- (3) 売上債権の期末残高の2%について、貸倒引当金を差額補充法で計上する。
- (4) 商品棚卸高は次のとおり。売上原価は仕入の行で計算する。

帳簿棚卸数量	22個	原価	@¥250
実地棚卸数量	20個	正味売却価額	@¥230

なお、棚卸減耗損は売上原価に算入するが、商品評価損は算入しない。
- (5) 買掛金のうち ¥10,000は、今期に商品を100ドルで仕入れたときのものであり、決算時の為替相場は1ドル¥120である。
- (6) 有形固定資産の減価償却を次のとおり行う。

建物	： 定額法	(残存価額は取得原価の10%，耐用年数30年)
備品	： 定額法	(残存価額はゼロ，耐用年数5年。なお、今期取得分は月割り計算)
- (7) 満期保有目的債券は、X1年4月1日に購入したA株式会社の社債である。償還期間は5年、利息は年2%、利払日は毎年9月末日と3月末日の年2回である。額面と取得価格の差額は金利の調整とみなされ、これまで償却原価法(定額法)で適正に処理されている。決算にあたり必要な処理を行う。
また、今期の利息を現金で受け取っていたが未記帳である。
- (8) 保険料は毎年2月1日に向こう1年分を支払っており、金額はここ数年一定である。決算にあたり必要な処理を行う。